大東文化大学大学院中国言語文化学専攻
『中国言語文化学研究』第 11 号（2022）

日中両言語における場面描写について
—話題と叙述に関するアンケート調査—
The Scene Descriptions in Chinese and Japanese
- A Questionnaire Survey about the Topic and Description –

洪　安瀾
Hong　Anlan

内容提要：目前关于语言主观性（subjectivity）以及说话人识解（construal）的研究成果丰硕，研究多集中精力讨论以下两方面的问题。其一是主观识解/客观识解的对立，其二是说话人焦点及视点设定的差异。但是目前的研究多基于语料库等对译的语言资料。语言表征的相近不能代表发言动机的相似，这类语言资料若用于语言主观性及识解方式差异的研究难以量化说话人动机。因此笔者邀请中日 106 名受试者参加了一次问卷调查，并整理分析问卷中中日两国受试者在话题设定与陈述方式上的特点。

キーワード：日中対照　　場面描写未知・既知　話題　叙述

目次

1.　はじめに
2.　アンケート調査の問題設定
3.　話題の設定
4.　叙述の仕方
5.　おわりに

1.　はじめに

言語の主観性(subjectivity)及び事態把握(construal)に関する従来の分析は、主観的・客観的な事態把握（沈家煊2001;池上嘉彦2011）、焦点や視点の違い（甘露統子2004;彭广陆2008,2020）という問題に集中している。それらの研究の多くは対訳の分析、或いはコーパスデータから抽出した特定の表現形式の多寡の比較に基づいており、話者がある事態を捉える際の、リアルタイムの把握のあり方を十分にとらえきれない可能性がある。本稿では、場面を描写する場合、日中両言語の母語話者が話題をどう設定するのか、そしてどのように記述するのかについてアンケート調査を行った。

2. アンケート調査の問題設定

2.1. 問題設定

アンケートは日本語と中国語との二種類を用意して、被験者に見た画像を母語で説明するようにと要求した。問題用紙は次のようになる。

図１：中国語の問題用紙

図２：日本語の問題用紙

アンケートの第一問には同じ画像が提示された。観察対象（客体）がリアル世界に位置付けることができない状況なので、「未知な場面」とする。第二問は日中両国の被験者にとって馴染みのある場所（リアルな世界に特定できる事物）を選んで、いずれも話者（観察の主体）の記憶（知識や経験）を呼び起こすことのできる場所なので、「既知な場面」とする。

2.2. 参加者

被験者は、初級或いは中級日本語を履修した中国語母語話者 55 名（中国人大学生を中心に、ネット配布、図 3）と、初級中国語の授業を履修した日本語母語話者 51 名（関東出身の大学生に書面提出）の計 106 名である。無回答を除いて、集められた例文は（複文も含んで）延べ 212 例ある。

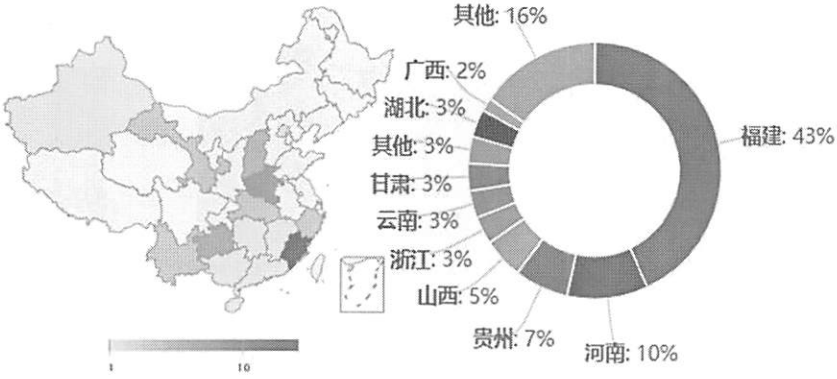


図３：中国人被験者の地域分布

3. 話題の設定

日中両言語の話者にはそれぞれ好まれる「重点の置き方」があるようである。本稿は212例に取り上げられた話題を「位置関係」、「様子や状態」、「知識」のように分けて、さらに「未知」、「既知」の別で、項目ごとにサンプルを整理・統計した。

表１：話題の設定

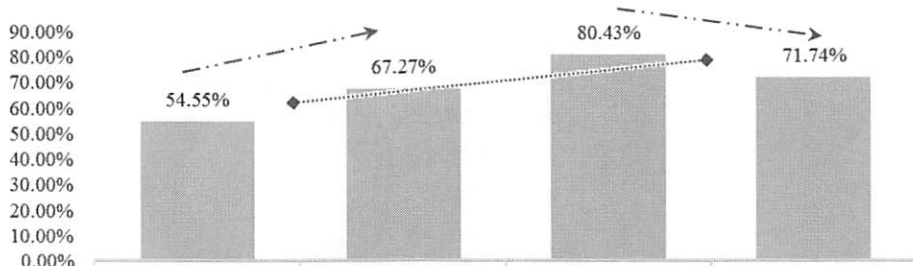
分類/話題	位置関係	様子や状態	知識
Cn-未知(55)	54.55%	10.91%	43.64%
Cn-既知(55)	67.27%	21.82%	47.27%
Jp-未知(46)	80.43%	26.09%	26.09%
Jp-既知(46)	71.74%	41.30%	41.30%

※一部重複あり

3.1. 位置関係

調査の結果、表１のように中国語話者の60.91%、日本語話者の76.09%（平均値は「◆」で標記）が客体の位置関係を紹介してくれた。カイ二乗検定を用いて検定した結果、日中両グループの間には有意差がある。具体的に見てみると、未知な場合に比べて、既知の場合では、中国語はサンプルが１割ほど増えているようだが、日本語の方はサンプルがやや減っているように見える（変化の傾向は「→」で示す）。

表２：位置関係を話題にするサンプルの分布



	Cn-未知(30/55名)	Cn-既知(37/55名)	Jp-未知(37/46名)	Jp-既知(33/46名)
■位置関係	54.55%	67.27%	80.43%	71.74%

◇サンプルのズレの発生率はカイ二乗検定を用いて検定した結果、

日中両グループ	$X^2=8.13$	DF=3	0.01<P<0.05	有意差あり
中国語のサンプル	$X^2=1.87$	DF=1	P>0.05	有意差なし
日本語のサンプル	$X^2=0.96$	DF=1	P>0.05	有意差なし

表 2 で分かるように、全体的に言えば、中国語話者より日本語話者のほうは位置関係を問題にする意欲が高い。ただし、中国語話者は馴染みのある場所の位置関係に関心を示すのに対して、日本語話者は初めて見る場面の空間配置をより詳しく報告しているようである。

(1)a.首先，在我们面前的是一个药店。药店右边有一个邮局。再接着往下走是派出所。(未知:Cn-4)

b.中间是个邮局，邮局的右边是药店，左边是派出所。(未知:Cn-55)

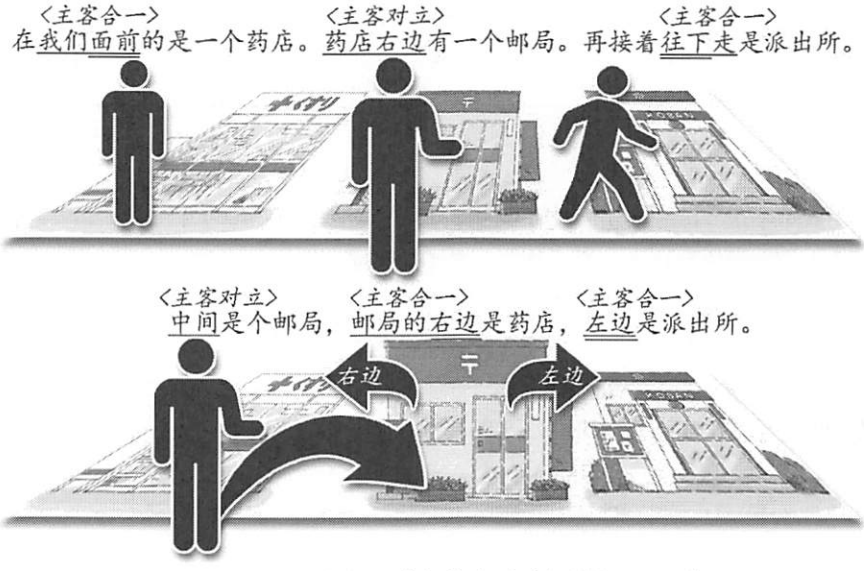


図４：例（1a）と例（1b）の図式

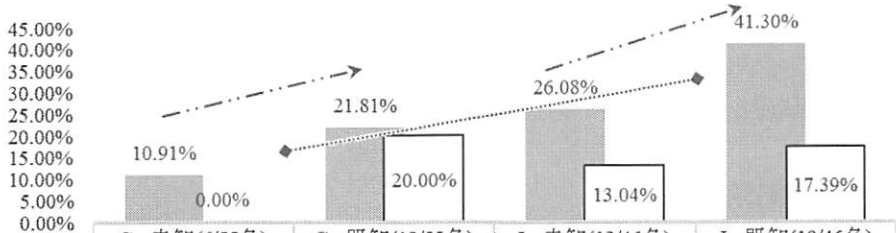
また、中国語の場合では、話者は自己を分裂させ「主客合一→主客対立→主客合一」(例

1a)、または「主客対立→主客合一」(例 1b)のように事態を捉えることができる。このような例文は、未知と既知のサンプルにはそれぞれ 5 例(16.67%)、7 例（18.91%）ある。日本語のサンプルには、自己分裂して、あるいは無情物と共感するような例がない。無情物を観察する場合、日本語話者は視点を分裂・移動させることなく、常に視点を一ヶ所に据えて観察を行うのである。

3.2. 様子と状態

客体の様子や状態を話題に設定した例文を次の表 3 のように整理した。全体的には、標本数が右肩上がりに増加し、未知より既知のほうが、中国語より日本語のほうが、様子や状態に重点を置く割合が高い。日中両グループの間には有意差がある。

表３：様態を話題にするサンプルの分布



	Cn-未知(6/55名)	Cn-既知(12/55名)	Jp-未知(12/46名)	Jp-既知(19/46名)
■様態	10.91%	21.81%	26.08%	41.30%
□動詞の使用	0.00%	20.00%	13.04%	17.39%

◇サンプルのズレの発生率はカイ二乗検定を用いて検定した結果、

日中両グループ	X^2=12.87	DF=3	P<0.01	有意差あり
中国語のサンプル	X^2=2.39	DF=1	P>0.05	有意差なし
日本語のサンプル	X^2=2.38	DF=1	P>0.05	有意差なし

サンプルには、例(2)のように、客体の様子を紹介する場合もあれば、例(3)のように客体が建てられている有り様（例えば「聳え立つ」）、もしくは配列の仕方(例えば「順に…並んで」)を説明する場合もある。客体の様子を紹介する場合、中国語は存在文やコピュラ文(例 2a、2c)がよく用いられるのに対して、日本語では連体修飾語(例 2b、2d)を用いて描写する。客体の有り様や配列の仕方（状態）を説明する際に、日中両言語は基本的に述語動詞によって場面を描写する。

(2)a.药店有四个透明的玻璃窗，上面有“＋”的符号，而邮局前面有个黑色的信箱，派出所有个粘贴报纸的栏。(未知:Cn-19)

b.くすりって書いてある建物と〒っていうマークのゆうびん局で、そのとなりにKOBAN。(未知:Jp-45)

c.图片正下方的一个正方形是人民英雄纪念碑、后方是天安门广场，可以看升旗，左右两边是人民大会堂和中国历史博物馆。天安门的后方是故宫。(既知:Cn-37)

d.一番大きいタワーがスカイツリーで、２番目に大きいタワーが東京タワーです。

大きな提灯が見えるのが雷門です。(既知:Jp-31)

(3)a.人民英雄纪念碑坐落在天安门广场，正前方的是人民大会堂。大会堂的旁边，是闻名的中国历史博物馆。(既知: Cn-16)

b.左から順に、薬局、郵便局、交番と店が並んでいる。(未知:Jp-17)

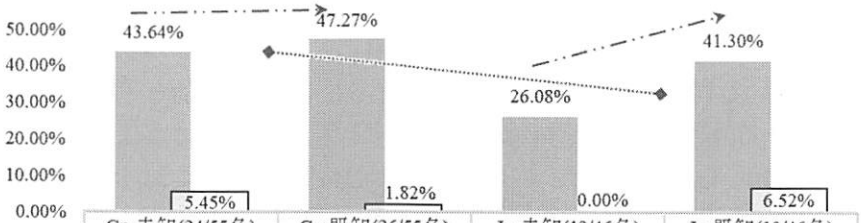
c.一番手前にあるのが雷門で、その後方に東京ドームシティがあります。建物の中で一番大きいスカイツリーがそびえたち、その近くに東京タワーがあります。(既知:Jp-5)

表 3 で示すように、中国語では話者が未知な客体の状態には無関心のようである（述語動詞を用いて未知な場面を描写する例文がない）。一方、既知な客体では、例(2c)の“一个正方形”（様子）を除いて、すべての例文は述語動詞を用いて客体の状態を説明している。したがって、中国語話者(今回のサンプル)が未知な場面に置かれると、客体の様子に関心を示すが、既知な場面では客体の有り様（客体自体の状態）や、空間配置の仕方（全体の状態）に関心を示すということが言えよう。日本語では、様子と状態とが区別なしで（例 3c）、どんな場面に置かれても、日本語話者が知る限りの情報を提供し、事細かに説明しているようである。

3. 3. 知識や経験

話者が自らの知識や経験に焦点を当てて報告するサンプルを次の表 4 のようにまとめる。どのような場面に置かれても、4 割の中国人被験者が自我を強く主張した（知識や経験を紹介する）が、反対に、日本話者の場合は、提示された画像に親しみを感じた分だけ、客体を詳しく紹介しているように見える（未知より既知の標本数が多いこと）。

表4：知識を話題にするサンプルの分布



	Cn-未知(24/55名)	Cn-既知(26/55名)	Jp-未知(12/46名)	Jp-既知(19/46名)
■知識	43.64%	47.27%	26.08%	41.30%
□個人経験	5.45%	1.82%	0.00%	6.52%

◇サンプルのズレの発生率をカイ二乗検定を用いて検定した結果、

日中両グループ	X2＝4.32	DF=3	P>0.05	有意差なし
中国語のサンプル	X2＝1	DF=1	P=1	有意差なし
日本語のサンプル	X2＝2.38	DF=1	P>0.05	有意差なし

また、本稿は話者の持つ知識（灰色の部分）を共通認識と個人的な経験（白い部分）とに分けて、内訳及び標本数を表 5 に整理する。

表５：共通認識と個人経験の標本数

	未知な場面	既知な場面
中国語	共通認識：100% 用途 - 24 例 先験的な経験：仮想 - 3 例　(計 24 例)	共通認識：100% 用途・評価 - 14 例　リアルな位置 - 12 例 先験的な経験：仮想1 例　(計 26 例)
日本語	共通認識：100% 用途 12 例 事後的な経験：無し　(計 12 例)	共通認識：100% 用途・評価 - 13 例　リアルな位置 - 13 例 事後的な経験：東京見学 - 3 例　(計 19 例)

※一部重複あり

被験者は基本的に客体の用途(例 4a,4b)や現実世界にある位置（例 4c の「東京、浅草」,4d の“东西南北”）など共通認識について説明している。

(4)a.くすりが売っている店。届け物を届ける場所。警察に用がある人が行く所。(未知:Jp-2)

b.药店:拿药的地方 邮局:寄信的地方 派出所:触犯轻微法规的人处理事情的地方(未知:Cn-23)

c.東京の風景が広がっています。私から見て、一番手前に浅草の雷門があり、その後ろに東京ドームシティ、さらに奥には東京タワーがあり、一番後ろにスカイツリーが見えます。(既知:Jp-31)

d.人民英雄纪念碑位于天安门广场中心，正北方向为天安门城楼。人民大会堂与国家博物馆均位于天安门广场，东西相对称。(既知:Cn-37)

ところが、被験者が個人的な経験を伝える場合、日本語話者は例（5a）のように東京見学の収穫を語って、旅行のアドバイスを提供してくれた。中国語話者は生活経験による推測(例 5b)や、仮想した空間を見学しているように(例 5b,c)画面を紹介している。即ち、日本語話者が事後的な経験を報告するのに対して、中国語話者が先験的な経験を好んで報告する。

(5)a.雷門とスカイツリーは浅草にあります。スカイツリーは日本で一番高い建物です。そこから見える景色は美しいです。東京ドームシティは私は行ったことがないので分かりませんが、遊ぶところです。東京タワーは六本木あたりにあって、夜に行くとすごくきれいです。１日でこの４ヶ所を回ることができますよ。(既知:Jp-10)

b.如果您需要买药，药店就在邮局旁边。如果您需要寄信，中间那个便是邮局。如果您需要警察帮助，请前往派出所。(未知:Cn-12)

c.这里是中国引以为傲的天安门广场，承载着沉重的历史重量，看，那边是人民英雄纪念碑、中国历史博物馆，那边是人民大会堂，各位想了解更多关于他们的历史，可以回去查阅相关资料。(既知:Cn-6)

ほかにも、場面を描写する場合、中国語話者が常に一定の順番を追って、客体を限られた角度から説明する。日本語話者の場合では、知悉している客体であれば、例 5a のように様々な角度から（「浅草にあり」はリアルな位置であり、「日本で一番高い」は評価であり、「遊ぶところです」は用途であり、「１日でこの４ヶ所を回ることができる」は経験であ

る)、思いつく順（「雷門→スカイツリー→東京ドームシティ→東京タワー」の順番）で場面を描写する事も可能である。

3.4. 他に気づいた点

以上述べたこと以外に、気づいたことが2点ほどある。

表2′：位置関係を話題にするサンプルの分布

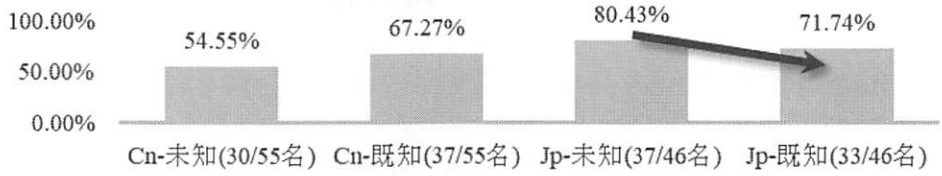
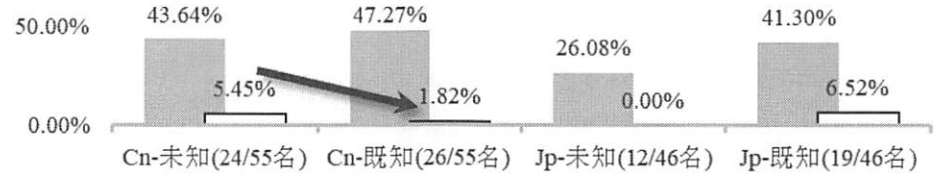


表4′：知識経験を話題にするサンプルの分布



第一に、未知な場面に比べて既知な場面から読み取れる情報量が多いはずである。しかし、次の表2′、表4′を見て分かるように、位置関係を報告する日本語話者の割合と、個人的な経験を紹介する中国語話者の割合は、未知より既知の方が減っていること（「→」で示す）が不思議である。日本語話者にとって既に把握した位置情報が蛇足になるか、中国語話者は釈迦に説法のようなこと(誰もわかるようなことについて先験的な経験をいうこと)を控えているかと思われる。

表1′：話題の設定

分類¥話題	位置関係	様子や状態	知識経験	合計
Cn-未知(55)	54.55%	10.91%	43.64%	109.10%
Cn-既知(55)	67.27% ⤴	21.82% ⤴	47.27% ⤴	136.36%
Jp-未知(46)	80.43%	26.09%	26.09%	132.61%
Jp-既知(46)	71.74% ⤵	41.30% ⤴	41.30% ⤴	154.34%

表６：幾つかの話題を取り上げた場合

	未知な場面		既知な場面	
中国語	位置関係＋様子や状態＋知識：	1例	位置関係＋様子や状態＋知識：	6例
	位置関係＋様子や状態：	0例	位置関係＋様子や状態：	5例
	位置関係＋知識：	4例	位置関係＋知識：	7例
	様子や状態＋知識：	4例	様子や状態＋知識：	0例
		(計9例)		(計18例)
日本語	位置関係＋様子や状態＋知識：	0例	位置関係＋様子や状態＋知識：	3例
	位置関係＋様子や状態：	9例	位置関係＋様子や状態：	12例
	位置関係＋知識：	2例	位置関係＋知識：	5例
	様子や状態＋知識：	0例	様子や状態＋知識：	6例
		(計11例)		(計26例)

第二に、中国語話者は基本的に出来事を一つの側面（話題）から描写しているが、既知な場合では、幾つかの側面から出来事を報告する場合もある(表1′と表6)。日本語話者は(位置関係を除いて)、なるべく多くの角度（話題）から出来事を紹介しているように見える。

4. 叙述の仕方

4.1. 存在表現

存在文、所在文、コピュラ文など存在表現を用いて説明する例文は次のように整理する。

表７：存在表現のサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	存在句（場所+客体）	14例 | 25.45%	7例 | 12.72%↗
	在字句（客体+場所）	6例 | 10.9%	19例 | 34.54%↘
	是字句（判断句）	34例 | 61.81%	50例 | 90.90%↗
			(55例のうち)
日本語	存在文（場所+対象）	25例 | 54.34%	31例 | 67.39%↗
	所在文（対象+場所）	0例	3例 | 6.52%↗
	コピュラ文	20例 | 43.47%	21例 | 45.65%↗
			(46例のうち)

中国語のサンプルには、未知な場合に存在文、既知な場合に“在字句”という使い分けがある（例6a、6b)。それに加え、どのような場面に置かれても六割以上の中国語話者がコピュラ文で強く自分を主張し（例6c、6d)、共通認識と個人的な経験とが区別なしで、「見る」ことが「知る」ことと直接に結びつくようである。

(6)a.图一有药店邮局和派出所。(未知:Cn-5)

b.人民英雄纪念碑位于天安门的正对面，人民大会堂在纪念碑的左边，中国历史博物馆在纪念碑的右边。(既知:Cn-14)

c.药店在最左边，中间是邮局，最右边是派出所。(未知:Cn-37)

d.人民英雄纪念碑的正前方是天安门，正左方是人民大会堂，正右方是中国历史博物

馆。(既知:Cn-38)

日本語では、存在文を大きく空間的存在文（「対象+場所」からなる「所在文」）と限量的存在文とに分けて、前者は物理的な空間と存在対象との結びつきを表す表現であるのに対し、後者は特定の集合における要素の有無を表す表現である（金水敏 2006）。未知な場面にせよ、既知な場面にせよ、日本語話者が基本的に限量的存在文を用いて、場面を描写している（例 7a、7b）。また、中国語話者に比べて、六割近くの日本語話者が主張や判断を避けているように、コピュラ文の使用を控えているように見える（例 7c、7d）。

(7)a.左から順に、くすり屋、郵便局、交番があります。(未知:Jp-18)

b.奥の中央にスカイツリーがあり、その右に東京タワーがある。その手前に東京ドームシティがあり、一番手前の左側に雷門がある。(既知:Jp-5)

c.目の前に三つの建物がありません。左から順に薬局、ゆうびん局、交番です。(未知:Jp-3)

d.東京の中でも人気のある場所で、一番大きいのがスカイツリーで、２番目大きいのが東京タワーになります。(既知:Jp-33)

4.2. 観察主体の動作

話者が「観察」及び「移動」という二つの側面から場面を描写することが可能である（表 8）。

表８：観察者の動作を紹介するサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	“看/见”类（話者の観察） “走”类（話者の移動）	3 例 | 5.45% 4 例 | 7.2%	4 例 | 7.27%↑ 2 例 | 3.64%↓ (55 例のうち)
日本語	「見える」など（話者の観察） 「通る/回る」など（話者の移動）	8 例 | 17.39% 0 例	22 例 | 47.82%↑ 5 例 | 10.86%↑ (46 例のうち)

中国語話者は未知か既知か関係なく、自己を画像の中に入り、そこから観察するか、或いはそこを通るかのように架空の状況を紹介することができる（例 8a、8b）。それと違って、日本語話者が常に実際に見たこと、実際に体験したことなどの事実に基づいて発話する（例 8c、8d、8e）。

(8)a.大家请看一下这三个建筑，有“十”的大家不用看字都知道是药店啦，“くすり”是药的意思，中间这个前方有个邮筒，很明显是邮局啦，最后一个建筑是派出所，有任何法律问题或者社会犯罪都可以积极往这里咨询(未知:Cn-6)

b.首先，映入眼帘的是屹立在中央的人民英雄纪念碑。纪念碑左边是人民大会堂，右边是中国历史博物馆。接着往正前方走，就会看到天安门。(既知:Cn-4)

c.郵便局があって、こちらから見て、左側に薬局、右側に交番があります。(未知:Jp-39)

d.雷門が手前にあり、そこを通ると、スカイツリーが一番最初に目に入ると思います。そのとなりに東京タワーがあり、手前に東京ドームシティが見えます。他にもたくさんのビルや建物があります。(既知:Jp-36)

e.人口が1番集中していることころで、外国人に人気な観光名所。日本の文化を表しているものもあり、また東京が一望できるタワーもある。(既知:Jp-42)

4.3. 観察対象の状態

前節の表3で示すように、客体の様子を(連体修飾語などで)描写する意欲が、日本語話者より、中国語話者の方が低いとのことが認められた。しかし、既知な客体の状態を紹介する割合は、日本語話者より中国語話者の方が高い(表9)。

表9：観察対象の状態を紹介するサンプル

	動詞	未知な場面	既知な場面
中国語	"屹立/坐落"类(建物の状態) "环绕/排列"类(空間の状態)	0例 0例	22例 | 47.82%↑ 5例 | 10.86%↑ (55例のうち)
日本語	「聳え立ち」など(建物の状態) 「並ぶ」など(空間の状態)	1例 | 2.17% 10例 | 21.73%	7例 | 15.21%↑ 3例 | 6.52%↓ (46例のうち)

表9から分かるように、中国語話者は既知な建築の状態(例9a)を熱心に説明しているが、一方、日本語話者は未知な客体の全体像(例(9b)の空間の状態)、既知な客体の細部(例(9c)の建物の状態)紹介してくれた。

(9)=(3)' a.人民英雄纪念碑坐落在天安门广场，正前方的是人民大会堂。大会堂的旁边，是闻名的中国历史博物馆。(既知: Cn-16)

b.左から順に、薬局、郵便局、交番と店が並んでいる。(未知:Jp-17)

c.一番手前にあるのが雷門で、その後方に東京ドームシティがあります。建物の中で一番大きいスカイツリーがそびえたち、その近くに東京タワーがあります。(既知:Jp-5)

5. 終わりに

本稿は日中両言語における場面描写について、話題設定及び叙述の側面から考察した。提示される画像、そして問題を変えると、被験者の回答も変わると考えられるが、両言語には好んで使う事態把握の「型」がある。本研究はその「型」に対する定量分析の試みである。

参考文献

池上嘉彦(2011a)「日本語話者における「好まれる言い回し」としての「主観的把握」」人工知能学会『人工知能学会誌』26巻4号:317-322

———（2011b）「日本語と主観性・主体性」『ひつじ意味論講座 5　主観性と主体性』ひつじ書房:49-67
伊藤創（2016）「日本語・中国語・英語母語話者における事態参与者焦点化の決定要因の差異」関西国際大学『関西国際大学研究紀要』(17):11-22
甘露統子（2004）「人称制限と視点」『言語と文化』(5):87-104
金水敏（2006）『日本語存在表現の歴史』ひつじ書房:14
高橋弥守彦（2020）「第二章 第一節　実質視点と話題視点」《中日翻译学的基础与构想：从共生到共创》外语教学与研究出版社:55-74
辻幸夫（2013）「解釈/捉え方(construal)、解釈する(construe)」『新編認知言語学キーワード事典』研究社:27-28
町田章（2012）「主観性と見えない参加者の可視化」『日本認知言語学会論文集』(12):246-257
刘宁生（1994）<汉语怎样表达物体的空间关系>《中国语文》(3):169-179
彭广陆（2008）<从翻译看日汉移动动词「来る/行く」和“来/去”的差异:以译者观察事物的角度>《日语学习与研究》(4):7-14
———（2016）「名詞の語彙的な意味における『視点』のあり方:中日両語の比較を中心に」大東文化大学大学院外国語学研究科『外国語学研究』(17):21-33.
———（2020）〈关于日汉语言认知模式的一个考察:以“出入”与“内外”的关系为例〉《东北亚外语研究》(4):14-28
沈家煊（2001）〈语言的“主观性”和“主观化”〉《外语教学与研究》(4):268-275